

日時 令和6年5月17日（金）

午後2時00分～午後4時50分

場所 浦和コミュニティセンター第13集会室

第 1 回

さいたま市市民活動推進委員会

会 議 録

1 開会

2 議題

- (1) 令和5年度マッチングファンド事業の報告会
- (2) 基金団体登録審査について
- (3) 市民活動及び協働の推進について

3 その他

4 閉会

さいたま市市民局市民生活部
市民協働推進課

出席者名簿

委員	渥美	翔 (公募により募集した市民)
(50音順)	阿部	成男 (市民活動団体の代表者)
	大塚	恵利子 (市民活動団体の代表者)
	岡	志寿子 (公募により募集した市民)
	篠崎	正彦 (学識経験を有する者)
	鈴木	俊治 (学識経験を有する者)
	田中	心彩 (市民活動団体の代表者)
	谷崎	美智子 (公募により募集した市民)
	濱中	真人 (大学又は事業者の代表者)
	平井	まゆみ (大学又は事業者の代表者)
	丸屋	美智代 (市職員)
	山形	華子 (市民活動団体の代表者)
事務局	橘	一郎 (市民協働推進課課長)
	稲村	嘉一 (市民協働推進課課長補佐兼係長)
	高橋	隼 (市民協働推進課主事)
	三富	美暉 (市民協働推進課主事)
欠席者	大木	洵人 (公募により募集した市民)
	田中	亜弓 (公募により募集した市民)
	久間	亜紀 (公募により募集した市民)
	平野	直 (市民活動団体の代表者)
	藤枝	陽子 (市民活動団体の代表者)
	堀川	修平 (学識経験を有する者)
	山口	恵美子 (市民活動団体の代表者)
	山本	和広 (市民活動団体の代表者)

1 開会

- 開会の挨拶
- 欠席の確認
- 資料の確認
- 議題の確認
- 傍聴の確認

2 議題

- 議題1 令和5年度マッチングファンド事業の報告会

○篠崎委員長

議題1、令和5年度マッチングファンド事業報告会にうつります。では、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料1-1から1-3について説明。

○篠崎委員長

ただ今の説明に対して、質問等ありますか。

では、報告会に移ります。特定非営利活動法人たねの会さんの発表をお願いします。

○特定非営利活動法人たねの会 佐藤

私たちの事業は、プレイパークでのびのび遊べるまちをつくろう！2年目ということで実施させていただきました。

プレイパークは、日本で始まったわけではなく、デンマークで始まったものになります。子供たちが廃材遊び場でよく遊んでいるというのを発見した人が始めたものが起源になります。

日本では1970年代に世田谷区で始まって、今、日本全国で500ヶ所以上に増えていると言われる活動です。特にプログラムを作るのではなくて、自由に使える素材や遊具、道具を用意して、子供たちが自分の発想で、自分がそれを作っていくという場所を地域のみなどで作っていくという活動になります。今、埼玉県内でもプレイパークの活動は25ヶ所と増えてきています。

私たちの団体は2003年から活動を始めて、20年になる団体です。2018年からは、さいたま市子ども家庭総合センターの中にあります、常設の冒険はらっぱプレイパークというものを運営させていただいております。

私たちの団体は、プレイパークをさいたま市内に広げたいという活動をしておりまして、今回、移動型プレイパークということで、プレイワーカーが遊び道具を積んで、プレイパークの無い地域に行って、遊び場を開くということをしていただきました。

昨年度に続いて、同じ公園で3ヶ所、計5回ずつやらせていただきました。昨年度と違うところは、最初に各地域の施設の方に御協力いただいて、これからプレイパークをやっていくということとか、プレイパークはどんな場所かということを各地域の施設において、座談会という形で開催させていただきました。

自治会さん、児童センターさん、それから子育て支援センターさんの場所を借りて、新聞紙で遊ぼうということで、遊びながら親御さんと交流し、私たちのことを知っていただくという活動から始めました。

こちらが活動の写真になります。プレイワーカーとして、昨年度と同じ2名に来ていただいて一緒に遊び場作りをしました。これが各公園の人数と様子の報告です。

まず、1箇所目が北区の番場公園というところで、時間が10時から13時なので、乳幼児親子対象の遊び場になります。昨年度と同じ時間帯で行いました。こちらも人数が増えて、積極的に手伝ってくれる親子さんが増えました。

2箇所目は、プラザ中央公園というところで、こちらは自治会さんの協力がとても強力で、火を使って焚き火をすることも可能になりました。

3箇所目は岩槻城址公園で、こちらは開催日を上曜日から平日に変えました。乳幼児親子さんが中心の遊び場になりまして、今後やるのであれば協力したいという声が多く聞かれました。

それから、プレイパーク事業検討会ということで、担当いただいた所管課の職員さんや各地域の方にお声掛けをして、今後こういった形でプレイパークをやっていたら良いかというようなことや今年度の感想などをお聞きして、みんなで話せる場を持ちました。

そこで出た意見が「普段遊んでいる子が少ない公園だが、たくさんの子供たちが出てきて、のびのび遊んでいる様子がとても良かった」というようなこととか、「コロナ禍で大人の交流の場が減っていたけれども、親同士の交流の場にもなっていた」、「PTAや親父の会とのマッチングができるのでは？」ということで、お父さんの御協力もありました。

それから、「子供たちが遊んでいることで高齢者の方も来てくれて、子供との関わりを楽しんでくれていた」、「市内にもっとプレイパークが広がっていくと良い」、「学校に行か

ない子供たちの居場所としての機能もあると知った」ということで、平日不登校の子供たちも遊んでいる様子がありました。

今後については、公園をプレイパークとして使ってもらうための仕組みづくりが必要ではないかといったような声や育児支援の面がありますので、そういった機能に注目してのプレイパークを検討していく必要があるのではないかという声もありました。

それから、他市の事例を参考に、さいたま市独自の仕組みづくりが必要ではないかという声がありました。

○篠崎委員長

毎月1回、3ヶ所の公園で非常に活発に活動されていて、2ヶ所は平日の午前中、乳幼児対象で小中学生もいらっしゃいますが、かなり小さなお子さんのニーズが高いということで、こういう時間の設定になっているという理解でよろしいでしょうか。

○特定非営利活動法人たねの会 佐藤

乳幼児のお母さん方のニーズと協力がとても期待できるので、こうした時間で開催したところがございます。

○篠崎委員長

一方で、プレイパークってかなり身体を動かしてみたいなところがあるのかなと思うのですが、乳幼児だとまだそこまでというところなのでしょうか。

○特定非営利活動法人たねの会 佐藤

乳幼児の子供たちがどろんこで遊んだり、水遊びできる環境がなかなか無いので、とても楽しそうに遊んでいる様子がありました。

○阿部委員

今、少子化の中で、非常にのびのびと交流ができるのは、私もすごく良いと思っているのですが、去年の報告があったときに、これを継続、発展するには、プレイワーカーという人材を育てる課題があるというお話を聞きました。

プレイワーカーというのは遊具の扱い方とか、そういうことも含めて、安全とかいろいろなことが必要ですよね。発展させるためのプレイワーカーの育成とかについて、特別に何かやっているかどうかを教えてください。

○特定非営利活動法人たねの会 佐藤

今回の事業ではやらなかったのですが、私たちの団体ではそういった人材育成のプログラム作りなどを実施しています。さいたま市に今後広くこういったプレイワーカーを養成するのであれば、できればさいたま市の事業の中でそういう人材育成の仕組みができると良いなという話も出ています。

○阿部委員

ぜひ頑張ってください。

○鈴木委員

大変素晴らしい活動で、ぜひ継続していただければと思います。

今も少し出たのですが、今後の継続にあたっての課題や市からこのような支援をして欲しいということがあればお聞かせください。

○特定非営利活動法人たねの会 佐藤

各地域でプレイパークが楽しいという声がとても出てきて、ただ、なかなか継続するとすると、市民の力がなければ、また、私たちの団体だけでは難しいところがあります。

プレイワーカーを仕事でやっているところもあるので、そういうプレイワーカーを呼べるような仕組みとか予算、もしくはプレイワーカーを地域で育てられるような仕組みのところを市の方にバックアップしていただけると嬉しいなと思います。

○鈴木委員

先ほど、他の市でも参考になる例があるとおっしゃったと思うのですが、例えばどんなことがあるのでしょうか。

○特定非営利活動法人たねの会 佐藤

講座などを市が開催したりとか、あとは、こういった条件であればプレイパークを開けるというようなものが条文化されていて、倉庫を貸してもらえたり、人材を派遣したりという仕組みがあるところもあります。

○篠崎委員長

では、時間になりましたので、以上とさせていただきます。

続いて、さいたまふたご・みつごサークルPeanuts CLUBさんの発表をお願いします。

○さいたまふたご・みつごサークルPeanuts CLUB 花俣

私たちは、令和5年度マッチングファンド助成を利用して、妊娠期からの多胎ファミリー教室という事業を開催いたしました。

まず、実施概要ですが、当事業は、多胎を妊娠中のママ、パパ、祖父母を対象とした両親学級を8月と2月の計2回、会場とオンラインを使い、ハイブリッドで開催しました。

多胎の妊娠、出産、育児について、正しい知識や情報、多胎家庭との繋がりを得ることで、不安や孤立などの問題の減少を図ります。

参加いただいた多胎家庭数は、1回目は10家庭、2回目は13家庭で、合計23家庭ございました。妊婦は23名、パパは17名、おばあちゃんが3名、参加者数の合計は43名でした。

開催内容については、動画を御用意しましたので、こちらを御覧ください。

日本赤十字看護大学教授による多胎の妊娠、出産の基礎知識の講義、オンラインを同時開催し、入院中や体調不良の方も参加いたしました。先輩ママの体験談は、様々なケースがあることを知っていただくために、パネラー形式で3名が体験談をお話しました。

そして、保健師による母子保健サービスの御案内、参考資料の展示と先輩ファミリーが使って便利だった育児グッズの展示と御紹介。双子育児グッズを産前に試せる貴重な機会です。大学からお借りした教材や妊婦ジャケットで妊娠8ヶ月頃のママを知ってもらうために、パパには日常生活に基づくママの動きもしてもらいました。

グループワークでは、パパとママに分かれて質疑応答をします。おばあちゃんの御参加もありました。助成金で配布したチラシの効果で取材も入りました。学生スタッフが育児サポートをしてくれました。御支援いただきありがとうございます。多胎妊娠を不安から楽しみへ変えていきます。

参加者の声としまして、アンケートでは、満足が約90%、まあ満足が約10%と高評価をいただき、会場に参加してくださった妊婦さんからは、「同じような悩みを持っている多胎家庭がいるとわかり心強かった」、「夫と参加したことで、目線を揃えることができた」、「リアルな話がとても参考になった」という声がありました。

また、オンライン参加者からは、「周りに同じような状況の家庭が少ない中、このような機会があると非常に嬉しい」、「時間が取れなくても、必要部分を逃さず聞くことができた」といった声がありました。

また、パパからも「出産子育てのイメージができた」、「サポートがあることがわかっ

た」、「サポートをもっと頑張ろうと思った」、おばあちゃんからは、「孫を迎える心の準備ができました」、「娘夫婦が楽しく子育てができるようサポートしてあげたいと思いました」という声がありました。

今後の展開ですが、令和6年度もマッチングファンド事業として継続して実施する予定です。今年度はオンライン開催を1回増やし、体調不良や遠方の方にも情報を届けること、当事業の周知拡大や内容の充実化、スタッフ育成と確保を図り、令和7年度以降の市との協働事業の継続を見据えた準備を考えております。

私たち当事者が行政や専門家との繋ぎ役になり、多胎家庭の心配を安心して変えるために、より良い事業の発展を目指していきたいと思っております。今年度もよろしくお願いたします。

○篠崎委員長

昨年度は計2回で、今年度は1回増やすということですがけれども、それは、より多くの方に届けたいというのと妊娠の時期によってもいろいろ変わると思うので、より細かいケアみたいな観点からなのでしょうか。

○さいたまふたご・みつごサークルPeanuts CLUB 花俣

おっしゃる通りです。先日、ファミリー教室ではないのですが、私たちが普段行っているサークルの中で、オンラインの方だったんですけども、入院中のママさんが耳だけ参加するというような御家庭が2組ございまして、このようなファミリー教室の内容も部分的に少しお話しさせてもらったのですが、非常に喜ばれました。

ということで、いろいろな御家庭がいらっしゃるの、きめ細かに情報が行き渡るかなと思っております。

○篠崎委員長

スタッフの充実という話もありました。参加者も増えたり回数が増えたら、ますます大変だと思うのですが、どんなスタッフ養成をされるのか、具体的なことがあれば教えてください。

○さいたまふたご・みつごサークルPeanuts CLUB 花俣

やっぱり様々な御家庭がありまして、いろいろな価値感や考え方、家族構成もかなり多種多様になると思いますので、私たちの気持ちを押し付けるのではなくて、きちんと傾聴

して寄り添うことができるように、例えば、私たちと同じ立場のサポートができる養成講座を開催するなど、事前に勉強した上で参加してもらいます。

そして、実際に参加し、関わっていただいて、自分と同じような立場の御家庭が喜んでくれた様子を見てもらい、またさらに、協力を深めていただくというような形で行ってきたいなと思っています。

○鈴木委員

大変、社会的意義のある活動だと思います。今後もぜひ展開していただければと思うのですが、例えばYouTubeなどを利用して、オンラインなどで頻繁にいつでもこのような情報が見れるというようなことをなさったらと思うのですが、いかがでしょうか。

○さいたまふたご・みつごサークルPeanuts CLUB 花俣

ありがとうございます。勉強になります。

○篠崎委員長

現段階では、今までのアーカイブを公開というような計画はまだ無いということでしょうか。

○さいたまふたご・みつごサークルPeanuts CLUB 花俣

今のところは無いですが、ぜひ検討させていただきたいと思っています。ありがとうございます。

○篠崎委員長

ありがとうございました。

3番目、特定非営利活動法人にじの絲さんの発表をお願いします。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

まず大人が知ろう！自分らしく生きていくための性の知識vol. 2の事業報告をさせていただきます。昨年に引き続き、マッチングファンド事業で開催させていただきました。

専門家による性に関するオンライン講座のオンデマンド配信ということで、対象は教育関係者、保護者向けに行いました。それから、中・高生向けの性教育冊子「つながるBOOK」を印刷して、さいたま市の方に配布の協力をさせていただいて、中学生、高校生の子

供たちに配布を行いました。

第1回目の月経・妊娠・性感染症編は、昨年同様、講師を産婦人科医の高橋幸子さんをお願いして講座を行いました。第2回は、性の多様性編。こちらは古堂達也さんに講師をお願いしました。第3回は、恋愛・sex編。こちらは助産師の櫻井裕子さんに講師をお願いしました。

申込者数は、延べ1,299名。前回よりも180名増です。再生回数も、計1,637回ということで、前回よりも222回増加という結果でした。つながるBOOKは5,000部配布し、さいたま市在住の方限定で32名の方に御協力をいただいて、講座等で学校に訪問した際に配布していただくなど活用していただきました。

参加いただいた方の声を御紹介します。「月経についてどんなときに受診すべきかを知っておくことは、児童への説明にも役立つと思った」、「ポジティブな性教育がこれからの子供たちにとっても良い影響を与えると感じた」、「たくさん情報があるのに、正しい情報が届いていないということ」、「LGBTQを理解するのではなく、シスジェンダーやヘテロセクシャルを含めた性の多様性について、学ぶことが大切というお話が非常に勉強になった」、「学校現場における困りごとや職員の対応の仕方が参考になった」、「中高生が大人にどのような性の相談をしてくるのか、事例をいくつも挙げてもらえて勉強になりました」、「子供たちの相談に乗る上で、一方的にならない、正論だけを言わないというポイントが印象的でした」、「子供たちが知りたいことを伝える教育が大切ということが印象深かった」など、こちらが参加者の方の声になります。

マッチングファンド事業として2年間やらせていただいたのですが、今後もこのような活動は継続してやっていきたいと思っておりますので、今後は自主財源の確保ということで、他団体の助成金の申請なども考えています。

また、これまで参加費は無料でやらせていただいたのですが、これからは有料化するか、あとは寄附や会員制度の案内など、自主事業の方も力を入れて継続を行っていききたいと思っております。

○篠崎委員長

講座を計3回オンデマンド配信されていますが、どんな方がアクセスしているのかみたいなデータがあれば教えていただきたいです。

○特定非営利活動法人にじの糸 吉野

教育関係者、保護者向けということで対象を設定していたのですが、保護者よりも学校

の先生や助産師さん、養護教諭の先生、学校の先生、フリースクールをやられている方や児童養護施設の方など、子供に普段接するお仕事をされている方が多かったです。続いて、保護者の方が多かったです。

○篠崎委員長

パンフレットを配られたということですが、全部配布できたのでしょうか。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

さいたま市の方限定ということで、申し込みはすぐに埋まらなかったのですが、それ以外にも所管課さんの繋がりなど御協力いただいて、すべて配布することができました。

○篠崎委員長

パンフレット自体は中高生向けの内容ということなののでしょうか。講座自体も大人が知ろうということではありますけれども、中高生に向けても対応できるような内容ということなののでしょうか。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

こちらは対象が中高生向けに伝える、性教育を知るという内容ですので、ダイレクトに子供に伝えるという内容よりも、子供たちの実態ですとか、学校で性教育を行っている先生方が子供たちの反応や質問などにどうやってお答えしていくとかそういった実践的な内容をお伝えしました。

○篠崎委員長

オンラインの段階でなくても良いのですが、参加された方々との質疑応答とかは、どんなやり方でやられたのでしょうか。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

こちらは収録したものを配信するという形で、期間を限定してオンデマンド配信でいつでも見られるという形にしたので、参加者の方が直接オンラインで繋がるということにはなかったのですが、お申し込みいただいた際に、事前質問のフォームを作っていたので、そこから拾って講師の方をお願いしたという形です。

○渥美委員

つながるBOOKに関して御質問をさせていただければと思います。配布対象は、さいたま市内の学生という記載がありまして、中高生向けの内容であるのかなと思うんですけども、中高生もさいたま市内には5,000人以上いると思います。

その配布したターゲットの中高生について、どんな人をターゲットに配ったのかななどを教えていただきたいです。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

つながるBOOKの配布対象は、協力いただく方が繋がりのある学校で講演などをされたときに配っていただくとか、つながるBOOKはWeb版もあるので、誰でも見れるんですけども、講演されたときにそれをテキストにして使ったりする先生方も多くいらっしゃって、その場合は自腹で印刷している方も結構いらっしゃるの、その点ですごく助かったとか、普段は学校に二、三部ぐらいしか置いておけないのが、生徒一人一人に配ることができるとかそういったお話をいただきました。

○山形委員

学校の先生たちは学んでらっしゃる方が多いということですが、例えば教育委員会とか、そういったところと繋がって連携していく形で、先生たちの学んでいく材料とするなど、そういった展望はお考えなのでしょうか。

○特定非営利活動法人にじの絲 吉野

教育委員会の方とか教育に携わる方は皆さん必要な知識だと思うので、その辺は考えてこれからもう少し広げていきたいと思っております。

○篠崎委員長

では、時間になりましたので、以上とさせていただきます。

4番目、さいたま有機都市計画さんの発表をお願いします。

○さいたま有機都市計画 内藤

2023年11月11日に、浦和駅東口駅前市民広場を使わせていただいて、さいたまOrganic City Fes. というイベントを行いました。これが2023年の様子ですが、2022年も実施させていただきました。

やったことは、農産物の直売です。僕ら自身が有機農業者であって、農産物を販売しました。続いて、農的ワークショップ。ワークショップは、野菜を商品にした子供向けの輪投げとか、野菜の形を型取った紙袋を作ろうとかそういうことをやったりしました。また、そもそも農業は社会的にどのような意義があるのかという展示なども行うブースも設けました。後は、農業政策課さんに御協力いただいて、これからさいたま市で就農したいという方に向けて、相談の窓口を設けました。

それから、有機農業に興味の無い人にもこの場に来て欲しくて、ステージイベントとして、ライブや浦和一女の合唱部さんに合唱の演奏をしていただいたりとか、あとは盆踊りで浦和音頭をやって、興味のない人にも来てもらうようにしました。

僕たち自身は、有機農業をもっと身近に感じてもらうというのもそうなんですけれども、農業自体をもっと気軽に市民の方が触れ合えたら良いなと思って、このイベントを実施しております。

あと、循環ステーションという新しい試みをしまして、生ごみを市民の方に持ち込んでいただいて、それを僕らが回収して、後日、畑で堆肥にするという市民の方に実際に循環を感じてもらう、有機農業の一部を感じ取ってもらうブースも設けました。

実績としては、出店ブースで240万円以上の売り上げがあって、その前の年が175万円ほどだったので、かなり規模感が増したんじゃないかと思います。具体的な来場者数は、会場の関係でカウントできないのですが、明らかに増えたということはわかりました。

来場者の皆さんの声としましては、「自分が暮らす街で有機農業が盛り上がるのはとても嬉しい」という声や「毎月開催して欲しい」、「地元の農家さんと繋がることができ嬉しい」という声が聞けました。

さいたまを有機農業のまちへというコンセプトで僕らは活動しているのですが、今後に向けても動き出していて、今年と同じ場所で年3回、6月、7月、11月にOrganic City Fes. を実施させていただく予定です。

農業政策課さんとの協力のもとやらせてもらって、今度はマッチングファンドではなくて、農政に関わる補助金も使いながらやっていきたいと思っています。

ただ、補助金だけに頼るのではなくて、協賛を募り、興味ある企業さんや個人の方からも御寄附いただいて、続けられたら良いなと思っております。

○篠崎委員長

継続していくということで、売上も上昇し、素晴らしいと思います。来場者の方からももう少し頻繁にやってほしいという声もあったとのことで、今期は年3回ということで、

ますますの活動を期待しております。

自主財源もというお話が最後ありましたが、少し具体的な話で申し上げると、売り上げも増えているので、出店料を上げるとかいろいろな手があると思います。協賛金などいろいろな手でなるべく自主財源を増やしていただけると良いかなと思います。

もう1つ、会場の規模もあるんでしょうけれども、出店者をもう少し増やしてみたいなことは可能なのでしょうか。

○さいたま有機都市計画 内藤

出店したいと言ってくれる農家さんが結構いるのですが、会場のスペース的にこれ以上は難しいので、会場自体を変えるというのも検討しております。

○山形委員

メンバーのほとんどの方が新規就農者だということですが、これは何か大きな理由があるのでしょうか。

○さいたま有機都市計画 内藤

さいたま市で新規就農を始めたいというと、かなりの人数が有機農業で始めたいという方たちが多いです。その方たちが入ってくれていることが大きいです。

農家って新規で始めるというのは珍しいので、新規で始めようと思うような人は、大体、環境を意識しているとか、食に対して関心があるとか、結構意欲的な人が多いので、新規参入イコール有機農業という形になっているのだと思います。

○篠崎委員長

有機農業を積極的に進めていこう、或いは新規就農者を増やしていこうみたいな活動とこのフェスとの関係を教えてください。

○農業政策課

市としてもオーガニックビレッジ宣言という、市として有機農業を推進していきましようという宣言に向けて今、動き始めているところでして、先ほど内藤様からもお話があったように、新規就農の方が差別化という点でも、有機農業を選んで就農される方が結構多くいらっしゃいます。

農業政策課としても新規就農の方を含めまして、有機農業を推進しているところで、こ

ういったイベントを共催という形で関わらせていただいているので、今後についても、そのような形で引き続きサポートはさせていただきたいと考えているところです。

○篠崎委員長

では、時間になりましたので、以上とさせていただきます。

続いて、コミュニケーションネットワーク岩槻さんの発表をお願いします。

○コミュニケーションネットワーク岩槻 須藤

私たちの団体は、令和5年度マッチングファンド一般助成事業として、岩槻区コミュニティ課さんからの御提案テーマである、自治会役員向けデジタル活用講座に手を挙げさせていただきました。

一番身近に皆さんが持っていらっしゃるのではなかろうかということで、「スマホ講座をやってみましょう」ということになり、本当に試行錯誤というか、とにかくやってみようということで、スマホ講座を9月と12月と2月の計3回やってみました。

岩槻区内には140自治会あり、全部の自治会の方々にコミュニティ課さんから「こういうふうにやりますよ」ということで告知をしていただいたのですが、なかなか参加者が集まらず、自治会長さんたちもお忙しくて、コロナも明けて自治会活動も活発になってきている時期ということもありますし、スマホ講座、デジタルということに対してのハードルが少し高かったのかなというようなどころでございます。

実際やってみましたら、なかなか参加者が集まらなくて、第1回目に来ていただいた方は7名でした。人数は少なかったのですが、少なかったなりにコミュニティ課の職員の方と和やかに操作のことについてお話ししていただいたり、事細かに質問を適宜入れたりというような親密な感じで講座が開けたかなと思います。これが1回目の様子です。

そして、2回目も前回の参加者さんが連続で参加していただき、「スマホでLINEグループを作って、役員さんに連絡できたりとか、そんなように使えると楽なんだ」とか、「いろいろ便利な機能があるんだね」という声や「できればLINEを中心にお話いただいて、実際に使えるようになって帰りたい」というようなアンケートをいただいたので、2回目はそれを中心にやってみました。

同じ方が7名参加してくださいましたので、講師の方ともすごく仲良く「これはどうやってやるんですか？」みたいな話でいろいろ盛り上がり、その質問をしている内容を他の方が聞いて「なるほど、こういうふうに見えるんだ！みたいな学びがありました」というような声もございました。

3回目は、今まで1回目、2回目でやったことをおさらいしながら「実際に使ってみましたよ」とか、「これがわかりません」みたいな形で、とりあえず質問会みたいなものをメインにやっていただきました。

それから、やっと来てもらえたのですが、高校生のボランティアに平日の昼間に来ていただいて、彼女は定時制高校だったので、少し多世代交流もできたと思います。

最後は、参加者の方が自治会事情をお互い発表し合って、「うちの自治会では、加入者が少なくて困っている」とか、いろいろお話をする時間を設けたりなどして、交流も深めていただきました。

実施概要の中でもう1個の柱としては、1回目の講座を4本に分けて、動画に撮影して編集して、YouTubeにアップしておりますので、他の自治会の方にも見ていただけますし、YouTubeですので他の区の方もどこからでも見ていただける成果物ができたということが挙げられます。

参加者の声は先ほどもありましたけれど、「余りにも身近すぎて聞くことができなかったことが聞いて良かった」というのと「携帯ショップでいろいろお姉さんに聞くと、専門用語ばかりでよくわからなかったけれど、そこら辺がわかった」という声がありました。

来年度はマッチングファンドを使わないですが、引き続きコミュニティ課さんと連携して、動画をどのように活用していけるかを検討して進めていきたいと思っています。

○篠崎委員長

自治会活動もなかなか大変で、高齢化もあってこういうデジタル、DXをどうやっていくかというのはすごく世のため大事な企画だったと思います。参加者さんは少なかった一方で、お話にもあったように、丁寧にやりとりをしないといけないという部分もあったので良かったと思います。

いくつかの成果が最終的にはあったと思うのですが、「こんなことを始めた」みたいなことを他の自治会とか自治会連合会とかで、発表されたりとかはあったのでしょうか。

○コミュニケーションネットワーク岩槻 須藤

コミュニティ課さんから伺ったところだと、自治会連合会さんには25名の理事の方がいらっしゃるのですが、「せっかく動画ができたから使っていこうみたいな話が出ていましたよ」とこの講座には参加していなかった理事の方がおっしゃっていましたので、御興味はあるし、これからの展開の希望というのは、あるのではないかと考えております。

○篠崎委員長

そこで、スマホを使って何ができるのか、具体的なイメージが湧くと良いのかもかもしれません。3回の講座の成果をいろいろな自治会に還元していただければと思います。

○平井委員

ここでは企業の代表で参加させていただいているのですが、私はNPOの活動もしています。その中で、資料は私が作るのですが、大学生のボランティアさんに講師という立場に立ってもらって、大学生によるスマホの動画講座を初心者向けに交流センターとかで何年か開催しています。

大学生とか若い人がボランティアに入っているというだけで、結構シニアの方が喜んで参加されるんですね。先ほど、ボランティアで高校生を呼ぶことができたというのは、御協力いただける方を増やせたりすると思いますし、平日だったから難しかったなら曜日とか時間をずらすとかで、会場に行ってただスマホに触れるだけではなくて、普段会えない人に会えるというのは、その場の機会として大事な時間になって、多分集客につながると思います。

一つ面白かったのが、男子大学生が講師だったら、女性のシニアが集まって、女子の大学生が講師をしたら、男性のシニアが集まって、上は80代とかまで、普段動画を作る方だけではなくて、作らないけれど孫の動画を友達がLINEで送ってきて悔しいとか、どんな入口でも良いと思います。

今回は、自治会の役員さんだったかもしれないけれど、必ずしも自治会の活動だけじゃなくても、活用が広いからということで、チラシとかの訴え方の工夫ができればすごく良いと思います。

○渥美委員

デジタル活用を推進する目的で、さいたま市の都市戦略本部デジタル改革推進部が、地域ICTリーダーを養成する講座を行っているかと思うのですが、そういった地域ICTリーダーとの連携といったものはあるのでしょうか。

○コミュニケーションネットワーク岩槻 須藤

所管課ではないのでわかりませんが、そういう方がいらっしゃるの、承知しております。

「そういう方に来ていただくか」という話もコミュニティ課さんとしていたのです

が、先ほど委員さんがおっしゃったように、「同じ年代の方よりは、多世代交流できた方がテンション上がるよね」とか、せっかく市民活動団体が入るので、そこをポイントにしたくて、高校生や大学生にぜひ来てもらいたいというふうにしてみました。

ところが、自治会活動をされている方は、平日の昼間に集まりたいけれど、高校生、大学生は集まりにくいというところもあって、そこはうまくいかなかったところですけども、そういうようなこともございました。

○篠崎委員長

では、時間になりましたので、以上とさせていただきます。

特定非営利活動法人岩槻・人形文化サポーターズさんの発表をお願いします。

○特定非営利活動法人岩槻・人形文化サポーターズ 奥山

昨年のマッチングファンド事業の実施報告に関して、日本の伝統文化のひとつであります、節句文化の中の端午の節句に光を当てて事業を行いました。4月29日から5月7日までの期間で、岩槻駅東口駅前の会場と人形博物館、にぎわい交流館の会場を結ぶところにある商店会の中の5店舗に協力を取って実施しました。

4月29日に関しては、オープニングと福祉子供フェスタという形で、写真に関しては、ちょうど大野県知事が岩槻に来られた日だったので、子供たちと武将に変身して写真を撮らせていただきました。あと、音楽演奏や9箇所の福祉作業所が参加していただいたイベント風景を掲載しております。

次の5月3日に関しては、駅前の会場でキッズダンス、子供縁日として、区内で活動している子どもたちのダンス披露、幼稚園児から中学生までのダンスを披露して、それと同時に子ども縁日として、奥の方のスペースでスライドの下の方にあるような形のイベントをやりました。

続きまして5月5日の駅前会場に関しては、手作り体験、子ども仮装まち巡り、そして紙相撲とか、紙で作った兜作り、開智学園の生徒たちにボランティア協力していただいて、子供たちと手づくりの衣装を作って着てもらって、それを参加店のお店をめぐって、お土産をもらったり、買い物を楽しんだり、その風景になります。これを着て次のにぎわい交流館、人形博物館会場の方に行ってもらったというような形になります。

あと、普通の日の駅前の会場に関しては、日替わりの子供まち遊びとして、風船を配ったり、トンネルを作って、平日も楽しんでいただきました。

5月3日から5日のにぎわい交流館、人形博物館の会場に関しては、ワークショップで

思い出づくりとして、武将に変身の記念写真を撮ってもらったり、鯉のぼりくぐり、木目込み兜を制作、兜の絵付け体験みたいなものをしていただいたのがこの様子です。

このような形でにぎわい交流館では、3日間で560名、期間中を通して2,100名の参加者という形で報告書には書かせていただいています。

参加者の声として、「開催期間中にいろいろな企画内容のイベントが日替わりであって、子供たちも家族も一緒に楽しめた」という声や去年ですとまだコロナが収まったばかりのころだったので、「まだコロナが心配な時期なので、節句の意味も考えながら、地元で子供と一緒に楽しめたのが良かった」、「駅前だけじゃなくて、人形博物館や商店街も巻き込んで、子供が買い物やイベントを楽しめた」、「これまでのイベントとは違う取り組みで面白かった」、あとは「節句のことも含めて、新しい取り組みのイベントで楽しかったので、今後も続けて欲しい」というような声をいただきました。

今後の展開ですが、節句文化を継承して盛り上げることで、地域の活性化や日本文化の伝承に貢献していきたいと思います。今回の取り組みの評価が高かったので、さらに企画内容を検証して継続していきたいと思います。

イベント会場を本会場プラス商店街を巻き込んで複数化したことによって、スタッフの数など、安全の課題が増えてくるのではないかと考えています。あとは、補助金無しでも今後継続していけるかどうか今後の展開を左右するので、その辺も考えてやっていければ良いかなと思います。

○篠崎委員長

日数や会場が複数あり、実施するのに大変御苦労されたかと思います。

タイトルにある節句祭りの継承と新しい挑戦ということでございますけれども、新しい挑戦については、今日いろいろなことを伺えた印象があるのですが、継承について、伝統をどう受け継いでいくかということで、どんな工夫をされたのか教えていただければと思います。

○特定非営利活動法人岩槻・人形文化サポーターズ 奥山

節句文化という節句自体、五節句あることがまずあまり知られていない状況になっていますので、その辺のところも含めて、今回は5月のちょうど時期的にも良いし、子供をメインにした端午の節句という感じで展開しました。

企画の中では、兜や鯉のぼりというのは端午の節句にマッチしているものですから、今回に関してはそこを強調して、若い子供もそうですけれど、開智学園の生徒や若い人たち

も含めて取り組んでいったのが、その辺のねらいです。

○篠崎委員長

助成金無しでも、何とかやっていきたいという話も出ましたが、具体的にこういうふうにして資金を集めて、調達していきたいみたいなことがあれば教えてください。

○特定非営利活動法人岩槻・人形文化サポーターズ 奥山

端午の節句なので5会場に区切ったのですが、地元のそういう商店会を巻き込む形で協賛を出していただくためには、お金がそこに落ちるような仕組みをイベントの中で考えていかないと継続や協賛金を集めることが難しいのかなと思います。

今回は補助金をいただいたので、その辺のところを実験的に新しい取り組みとしてやらせていただいて一応好評でした。今回は1日だけの取り組みだったのですが、今後それを期間中通してやれば、また違う評価が出るのかなと思います。

○山形委員

地域の伝統事業との連携、情報発信なども企画の中に入れていったけれども、思うようにいかない部分があったということなのですが、具体的にどのようなところが思うようにいかなかったのでしょうか。

○特定非営利活動法人岩槻・人形文化サポーターズ 奥山

年度があつての補助金ですので、開催が4月末からということもあつて、動ける期間が非常に短いです。補助金を当てにしてやるものですから、そういうところで情報発信というのは、地元や行政さんも含めてですけど、少し期間的にきつかったのかなというのが一番です。

○山形委員

では、補助金ありきの活動になっているということでしょうか。

○特定非営利活動法人岩槻・人形文化サポーターズ 奥山

今回は一応、補助金をいただいたの企画ですから、今後は補助金無しになるという体制になれば、年間を通してのスケジュールで準備できるようになれば良いかなと思います。

○篠崎委員長

では、時間になりましたので、以上とさせていただきます。

最後、Happyマルシェ運営委員会さんの発表をお願いします。

○Happyマルシェ運営委員会 富澤

我々の目指すものは、心と身体とお腹が満たされるコミュニティづくりです。こちらのスライドに挙げたことが叶うよう活動を行っております。

Happyマルシェは、日常の延長にあり、人と人がつながる機会を増やし、居場所の創出につながります。人と人の架け橋となることをHappyマルシェは使命としております。

昨年度の成果としましては、マルシェをきっかけに新たなことに挑戦する仲間との出会いや新たなお客様との御縁をつないだ出店者さんも多く、様々な人の居場所を作り出すことができました。それがさらに繋がり、地域で活動されている他の団体の方やイベントと連携をとることが出来ました。

昨年度の活動は、スライドのようにマルシェやイベントを多数開催し、多くの方に参加していただきました。昨年度の事業の様子を御紹介いたします。

マルシェ開始当時は想像もしていなかった横断幕を作り、広告塔の1つとなっております。マルシェ当日は時間帯による波はあるものの、リピーターの方を含め、数百人単位の御来場があることが本当にありがたいかぎりです。

午前中にはほとんど品薄になることもある新鮮な野菜や世界に一つだけのこだわりが詰まった作品販売のほか、子供向けのワークショップは、お子さんが体験する姿を見守る御両親のまなざしが温かく感じます。

長きにわたり空き家だった高架下の店舗は、楽器屋さんが入られたことが功を奏し、演奏の許可が出て、サクラノードではハードルが高かった演奏や発表の場としての利用を開始いたしました。プロの迫力ある演奏から、子供たちの一生懸命な可愛らしい発表まで見ることができました。

昨年度の大きいステップの一つは、武蔵浦和西口広場を利用できるようになったことです。これはひとえに南区コミュニティ課の御担当者様がお忙しい中、献身的なサポートをしていただいた結果であり、感謝申し上げます。サポートメンバーは徐々に増えたこともあり、一周年記念にはオリジナルTシャツを作成し、以前よりも一体感が出ました。

きつずあきんどに参加しているメンバーの成長は目覚ましく、こちらが様々なことを教えられました。出店を通して、子供たちにとって何か貢献するきっかけになれば良いなど考えていたのですが、それをはるかに上回る結果がございました。

派生イベントはどれも興味深く内容が詰まっているので、参加された方は皆さん喜んで帰られるのですが、まだイベント自体が認知されていないので、さらに必要な方への情報を届けることが今後の課題です。

私自身気づけば、自分の心地よい居場所ができ、新たな仲間、奇跡的なパートナーがマルシェをきっかけにできたことが今後の財産となりました。このムーブメントは、すでに至る所で連鎖しており、当初より目指している新たなコミュニティとしてさらなる進化を本年度は意図していきたいと考えております。

それでは、来場者の声を紹介いたします。参加者は子育て世代が多く、南区を中心に近隣の方にいらしていただき、通りすがりのお客様も多いことがわかります。そして、約8割の方に満足していただきました。

こちらのアンケート以外にも感想を伺うと「今回初めて来ました。こんなに近くで楽しいイベントをやっていることを知らなかった。こちらでお友達もできたので次回も行きたい」50代女性。「毎回いろいろなキッチンカーが来て、本当においしいので今回で3回目です」30代男性。「子供たちも楽しめるし、何より場所や人の雰囲気がとても良い」40代女性。こうした嬉しい声をいただくことができました。今年度もアンケートを行い、お客様からのニーズを把握しながら、更なる発展を行っていきたいと考えています。

今年度も継続してマッチングファンドを活用させていただき、スライドの内容で事業を進めていきたいと考えております。特に6月1日、2日のイベントは新たな挑戦となる内容ですので、良かったらぜひ遊びに来ていただけると嬉しいです。

今年度も南区コミュニティ課と協働事業を継続することで、スライドのように進めていきます。今までは人と人のかけ橋になることを使命として参りましたが、今年度は、人と人、そして人と街のかけ橋になるように事業を展開していきます。引き続き応援よろしく願いいたします。

○篠崎委員長

お手本のような活動だなと拝見しました。最後にもありましたけれども、これからイベント疲れみたいなものが、やる方も参加者側も出てくると思います。持続性みたいなものについて、具体的にどんなことを検討されているのか教えていただければと思います。

○Happyマルシェ運営委員会 富澤

まず、今年度は昨年と違って回数を減らしまして、これまで月に1回、第1日曜日に開催していたものを半分近くに減らして集中して、各回に内容の濃いものとして、運営して

いきたいと考えております。

あと、会場も高架下だけではなく、報告で申し上げた西口広場の方も使わせていただきつつ、新しく来ていただけるようなお客様を増やしていきたいと考えています。

○Happyマルシェ運営委員会 沼倉

既存でもともと地域にあるイベントと連携しまして、その規模を拡大しながら、もともとあったイベントをにぎやかにしていくところも今年は重点的にやっていきたいと考えています。

○平井委員

最後におっしゃった既存イベントとのコラボがすごく素晴らしいとっていて、私、浦和区で市民活動ネットワーク連絡会という会に所属していて、年に1回イベントをするのですが、市民活動団体が集まる発表会みたいな場なので、飲食とかが無いんですね。

会場も浦和コミュニティセンターのフロアを全部使っていて、下でイベントをして下さっているいろいろな実行委員会さんがいらっしゃるのですが、同日開催を考えてもらえるところが無いのか、今年度はそれを模索したいねと言っていて、お互いに相乗効果みたいなものを多分求めているところもあると思います。

私自身が今そうなので、それがすごく今後の発展に繋がると思うので、ぜひ力を入れていただけたらと思います。

○篠崎委員長

この活動は多くの人出と知恵と努力が必要かなと思って、そういうものもだんだん新しい繋がりの中で増やしているということですけども、もう少しシステムチックにやっていくというようなお考えなのでしょうか。それとも、皆さんが自然に学んでいくというようなお考えなのでしょうか。

○Happyマルシェ運営委員会 沼倉

まだ正直、目の前のことでいっぱいというのが正直なところですが、今、御提案いただいた後の方が私たちとしては一番近いかなと思っております。

やはり御縁で繋がっているということを実によく感じますので、まずはそういった方たちを大切にしながら、そういう人を中心として発展させていけたらと思っています。

そういった中で今後の展望として、そういう活動ができれば良いかなと考えています。

○篠崎委員長

収益の話ですが、補助金が無くても実施できそうなどころまでは、たどり着けそうなイメージでしょうか。それとも、ある程度、市とか他の助成金が無いと維持が難しいのかなど、見込みで結構なので教えてください。

○Happyマルシェ運営委員会 富澤

補助金はあった方がありがたいなというのはあるんですけども、ただ、今回の高架下だけではなく、西口広場の方を使わせていただいたことは、自分たちが考えていた以上にすごくポテンシャルが高く、集客がすごいので、そちらの方で協賛していただく企業さんだったり、団体さんといったところが年間に入っていただけるように、下準備していけたら良いなというのが今年度思っているところです。

○篠崎委員長

以上で報告会を終了します。

最終的に委員会がまとめた講評については、団体さんや所管課さんにお知らせするとともにホームページで公表されます。講評の記入をまとめる時間を5分程度取ります。

後ほど、それぞれの団体さんや全体に対する御意見をいただきたいと思います。15時半くらいを目安にまとめていただければと思います。

○事務局

書き終えた方から休憩していただいて大丈夫ですので、15時35分ぐらいから始められたらと思います。

《 5分間休憩 》

○篠崎委員長

今日、書かれた御意見は、最終的には委員会の講評として、私と事務局でまとめて団体さんと所管課さんにお伝えすることになると思いますけれども、その前に皆様からも御意見があれば伺いたいと思っております。

順番に7団体の御意見をいただいて、少し時間が余れば、最後に全体的なお話が出来ればと思っております。

最初は、プレイパーク事業についてです。地道に活動されている印象でしたけれども、一方で、もう少し小学生とかを呼べたら良かったのかなとか、あと、団体さんからもありましたけれども、こういう公園でこういうプレイパークが実現できるのではないかなど、その辺の御意見や提言があったりすると良いかなと思います。いかがでしょうか。

○平井委員

乳幼児の交流の場が平日の開催ということですがけれども、多分、赤ちゃんたち本人では無く、ママたちの交流の場としてすごく大切なところになっているのかなと思います。

あと、小学生になると今の子は習い事が多くて、実際に開催しても土日に来ないんじゃないかなというのは、リアルな実態として感じていて、平日開催にしているというのは、逆にニーズに合っている状況なのかなと感じました。

○篠崎委員長

土曜日の開催もなかなか来ていますね。もちろん乳幼児も多いですけども。

○谷崎委員

活動内容については、評価できるところがたくさんあると思うのですが、いつも気になるのは、収支計算書の方でどうしてもほとんどが報酬で、しかもプレイワーカーにほとんどいってしまっています。なおかつ、あまり新しくプレイワーカーを育てていく案が無いというのがとても気になるところです。

○篠崎委員長

多分、プレイワーカーを派遣してもらっているんじゃないでしょうか。市と協働して、そういう養成講座になったら良いんじゃないかみたいな話もしかり、この事業の実施に当たっては、ある程度専門性が必要で、派遣していただいているというところですかね。活動していく上では、なかなかネックになってくる場所かもしれません。

2つ目のさいたまふたご・みつごサークルPeanuts CLUBです。非常に意義のある活動で、これからも発展させていくという話もあったので、ぜひ進めていただきたいと思っています。

質問し忘れたことがあるのですが、参加者間でのいろいろなコミュニケーションは、あったのかなみたいなのを聞き忘れたのを思い出しました。よろしいでしょうか。

3番目、まず大人が知ろう！自分らしく生きていくための性の知識vol. 2です。本当に

これも大事で、高校とか中学の先生は、多分、学校の先生向けの講習みたいなのもあると思うのですが、それだけだどうも不十分だということなのではないでしょうか。この活動自体の意義は、もちろんあるかとは思いますが。

○平井委員

私を感じたのは、先生とは毎日会っているので、家族と同じぐらい毎日会っている人と性の話というのが多分、年頃の子はハードルが高いのかなと思います。

外部から来た人だったら、その時だけだから聞けることもあって、クッションとしてもすごく良いのかなと思ったので、むしろ渥美委員がおっしゃった通り、もっとたくさんの学校で開催された方が良いと思っていて、公立私立問わず、その情報を取りに行けるようになっていって良いかなと思いました。

あと、その講師の派遣とかも、いつでも頼めるようになっていたら良いのにと思いました。先生と性の話ができるかという距離が近すぎて、少しハードルが高いと思うので、逆に良いのではないかなと思いました。

○篠崎委員長

次は、Organic City Fes.です。御意見を伺えればと思います。

○平井委員

市なので県とは関係無いと思うのですが、県庁の敷地の中でも随分前からお野菜を売っている朝市みたいなのが確かあった気がします。そういうところとコラボしていけたら良いかなと思いました。

地域の方々の応援になっているかもしれないけれども、もともと頑張っている方々にもスポットライトが当たるようになり、交流みたいなコラボイベントがあっても良いのかなということを感じました。

○篠崎委員長

回数が増えていくところもありますし、そういうようなところで、今までと少し違うスタイルでいけると良いかなと思います。

次は、自治会役員向けのデジタル活用講座。この講座に行くと、具体的に何が出来るようになるのかとかボランティアの話も出ましたが、どう人を集めるのかみたいな側面がもう少しだったのかなと思います。

頑張っていらっしゃるのは良く分かるので、参加者をどう集めるかとか、来た方の何ができないのかとかを自治会の方たちに伝えていただけたらすると良いのかなという気がしました。

○平井委員

先ほども申し上げた通り、スマホで初心者向けの動画編集というのをシニアの方々に向けて大学生にやっけていただいています、3人のスタッフで15人が限界です。つまり、講師1人に対して5人。私たちは感覚で動かしますが、使い慣れていない方は動かせないので、1回の人数を増やすのではなくて、回数を増やすしかないというのは、仕方ないのかなと思います。

○篠崎委員長

今回は講師の方が1人なので、ちょうど良かったというのはありますね。参加者のサポートに必要な人数にも少しミスマッチの可能性があるといるところでしょうか。

続いて、6番目、岩槻の節句文化の継承と挑戦。「節句の継承はなんですか？」という質問に対して、「兜や鯉のぼりとかをやりました」というのが、それが本当に継承なのかみたいなことを少し思ったりもしましたが、皆さんからも御意見を伺えればと思います。

○山形委員

お話を聞いて気になったところが、「商店街の方にお金を落としてあげる仕組みが云々」というところが私はすごく気になっていて、そこは商店街と連携して何かをしていくという体制を作るべきではないかなと思いました。

イベント自体が助成金をいただいて上からポンと載せただけのような、いただいた助成金を使って、その地域で何をやっていけるのかという視点が不足しているのかなと感じました。

○鈴木委員

岩槻さんのことだけでは無く、全体を通してですが、改めて各団体さんの話を聞いて、報告書を見るとやはり大変だと思います。

皆さん助成金は60万とか20万とか、中には10万円いかない事業もあって、日頃から活動して、レポートを書き、報告書を書き、ここまで来て報告するというのは、やはり大変なことだと思います。

皆様がおっしゃったことは最もですが、申請をして、一生懸命やって、自分の時間を相当ボランティアで使うということに関して敬意を表します。皆さん素晴らしいなど、私はむしろそのような感想です。

さいたま市も人口は100万人以上で、その中でこういう活動をされている方はごく一部の方ですから、そういった意味では、もっといろいろな支援を継続して展開して、こうした活動は、社会的な意義も大変あると思います。

楽しんでいただきつつ、こうした活動は皆さんの人生の糧にもなっていると思いますので、「こういうことは意味があるんだ」というのを強調した上で、こうしたことも考えいただくとより発展的に良いのではないかと思います。

改めて皆さんよく来てくださって、さいたまを元気にしている皆さんだと思います。

○篠崎委員長

最後に、7番目のHappyマルシェです。あまりシステムチックにやらないという御意見があって、それはそれで継続性としては大変だということで、システムチックにやると今のイベントの良さがなくなってしまうのかなという気もします。

○平井委員

他の市の事例ですけれども、こういう代表者の方々のトークショーとかが行われているところがあって、これからやってみたいと思う人たちが聞きに来るんですね。やはり、そこで繋がりを作りたい人とか、こういった方々にもそういう場を設けて、「どうですか、やっていただけませんか？」という機会を作るというのもすごくこういった活動が増えることになるのかなと思います。

トークの講演者は、2人とか3人とかに絞って、回数をやるという方がきちんとそのカテゴリーにあった方々が来ると思うので、それは御提案したいと思います。

○篠崎委員長

良いですね。すぐできるかどうかはわかりませんが、応募する前の1ヶ月前とか、2か月前とかに出来ると良いですね。

○大塚委員

今日のような報告とかの方が結構大事だったりしますし、あと、もうコロナが明けて、見学とかもできると思います。前は、発表者しか入れませんみたいな感じだったと思いま

すが、もう少し発表に来る方を見れるようなお知らせというか、「見て、聞いてください」みたいなことをやったり、2回ぐらいに分けるとかも良いと思います。

今までの委員会での市民活動についての話し合いよりは、マッチングファンドに向けて団体さんに、「どういうものに使えるかとか、どういう助成金をどういう形で使えるか」というのをもう少し知らせるような活動があったら良いなと思いました。

○篠崎委員長

委員会の開催の回数とかもあるのですが、公開講評会みたいなのもあり得るのかもしれませんが。委員会自体も公開されていて、傍聴はできるわけですがけれども、具体的にこういう公開報告会をやりますよみたいな手もあるかもしれません。

○渥美委員

全体的にお話を聞いていると、多世代交流とか若者を取り込むというような言葉が多々ありました。個人的には、大学との連携とかそういったところをもっと力を入れていければ良いのかなと思ったところです。

私が通っている大学だと結構地域との繋がりがあって、行政への政策提言みたいなものを行政と一緒にやっていたりもします。なので、一概には言えないかもしれませんが、どの大学に関しても、地域の繋がりを大切にしている側面があるのではないかと思います。

かつ、大学側を味方につければ、大学が学生にいろいろ告知をしてくれると思います。学生サイドとしても、大学から告知が来ると意外と安心できる場所があって、大学に入学するとすぐに「このような怪しい団体に注意してください」とかそういう講習があります。

そこで、大学側が「こういうイベントがありますよ、ボランティアがありますよ」というものを紹介してくれると、そういう怪しい団体ではないなという安心感もあります。かつ、ボランティアとかは、自分の周りにも探している学生が非常に多いです。「何をやれば良いか」とかそういう話を結構聞くので、そういったところと大学との連携をもっとしていけば、多世代交流の若者を取り込むこともできるんじゃないかと思いました。

○篠崎委員長

今期の委員会で、いかに活動する人を増やしていくかというような話をしていますが、一つの団体に入ってやっていくのは大変なところもあるけれど、ボランティアとかまちづくりとかに興味がある方はすごく多いかと思います。

スタッフマッチングみたいなものもあるかと思います。マッチングまでいかななくても、こういう団体さんが今度こういう活動をするので、こういう人に来てほしいみたいな、団体さんもいきなり知らない人が来ると少し困るかもしれないですけども、その辺をうまいフィルタというか、それほど強くないフィルタを作って参加しやすくなるみたいな。

あるいは、ボランティアバンクみたいなものがあるのかもしれませんが、埼玉県内の大学さんに声をかけて、そういうのは作っても良いのかなと思いました。

■議題2 基金団体登録審査について

○篠崎委員長

2番目の議題、基金団体登録審査について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料2-1から2-2について説明。

○篠崎委員長

特に皆様から異議が無ければ、登録としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○各委員

はい。

■議題3 市民活動及び協働の推進について

○篠崎委員長

次の議題、市民活動及び協働の推進について。この辺の定義であったり、これまでのワークショップの成果をまとめた資料を作成いただきました。事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料3から4について説明。

○篠崎委員長

ワークショップでいろいろな御意見があったものを事務局にまとめていただいたのが資

料3ということです。それと資料3の最後に、いろいろな市民活動の団体があるということで、例をマトリックスに入れ込んでいますが、今日はそんなに激しい議論をしなくてもよろしいでしょうか。

○事務局

そうですね。時間を4時半までと考えております。

○篠崎委員長

また議論をお願いしたいと思います。この辺、大事な部分かと思えます。

続いて、資料4、第9期市民活動推進委員会が考える市民活動のイメージ(案)ということで、「市の発展のために市民が主役となりながら、それぞれの興味ややりがい、他者や地域のために楽しんで活動するもの」ということですが、市の発展のためにとか、楽しんでというところで、こういう文言で良いかということは、皆さんの御意見を伺いたいと思っております。

市民が主役となりながら、あと、それぞれの興味ややりがい、他者や地域のためにとか、この辺は良いのではないかと感じておりますけれども、御意見を伺えればと思います。

○鈴木委員

今日の前段の議論でもありましたが、やはり今、参加されている方は、相当の意識を持ってやってらっしゃる方だと思います。この前の応募も同じ団体さんが多かったということは、結局、裾野が広がらないということだと思います。

今後、市民活動を広げていくためには、もっともっとハードルを下げ、「これだったら気軽にできそう」というようにしていかないと、相当の見識とかパワーがある人しか入ってこないと思います。

基本的にそこをもっと気軽にやれるようにしていくということが裾野を広げることには、非常に必要なことなのではないかと思いました。

それで、この文章を見るとやはり、最初に市の発展のためにと来てしまうと、少し硬いと思います。キーワード的には、自己実現とか生きがいとか、そういうことをもっと打ち出して、やりがい、趣味ということもあるのですが、結局、皆さんそういうことをなさって、自分のお金を投じている人もいると思うし、時間を相当投じているなら、地域コミュニティに貢献していることにやりがいや自己実現、生きがいを感じてらっしゃると思います。

そこを講えるというか、そういうことで皆さんが地域への参加を通して自己実現、豊かな

人生を送って下さいみたいなトーンで入るのが良いのではないかと思います。

あとは、市の発展というと、さいたま市全体と捉えられるので、地域へのコミュニティの参加とか活性化とか、あなたの暮らしやすいまちのためとか、暮らしやすいまちづくりと公共、公益的なこととその個人の自己実現が両方うまくマッチできるというか、そこがポイントかと思うのですが、文言としては「これだったらやってみるか」と思えるようにすることが一番大事なかなと思います。

○山形委員

私も市の発展のためにという言葉がものすごく引っかかって、これありきでは活動する人はいないかなと思いました。なので、書くとしたら結果としてそういったことに繋がるといふ、そういった程度に収めるべきものなのかなと思いました。

○渥美委員

私も二人の意見に全く同意という形で、市の発展となると、少し硬いなというイメージがありますし、趣味が結果的に地域とか市のためになったみたいなお話を聞くことがあるので、この文言は言い換えるか、或いは不要なのかなと個人的には思ったところです。

○平井委員

多分みんなそうだと思うのですが、市の発展のためにというよりは、市民が生きがいのためとか、自分たちが本当にやりたくてというようなことを冒頭に入れたいいけないと思います。

一番後ろの方にそれが市の発展につながると嬉しいみたいなことはあっても良いと思います。でも、最初に来てはいけないと思います。市民が生きがいだったり、そういったことで主役となりながらという形なら、みんなそうだなと思うだろうし、県の話ですが、地域文化事業というのに携わらせてもらっているんですけども、部署の名称が生涯学習推進課に変わりました。

生まれてから死ぬまで100年というようなこととか、生き方とかに照準を当てた文章にした方が多分良いと思います。

○篠崎委員長

市のためにやっているわけではなくて、やっているとためになっているというイメージですね。ためにがどこにかかるというところですけど、公益的な他者や地域の発展のため

にみたいな文言にするのかなと思います。

また、事務局と相談して、次回の委員会でも提案させていただきたいと思います。

続いて、資料5です。もう少し軽いファンドの利用の仕方があったほうが良いのではないかという御意見があり、スタートアップみたいな名前をつけた助成があっても良いのではないかということで市の方でも検討していただきましたので、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料5について説明。

○篠崎委員長

まず、助成対象団体の範囲ですが、いわゆる市民活動で広く捉えて、法人格が必要というよりは、広く気軽に参加していただくスタートアップなので、法人格が無くても良いのではないかというのが正直なところではあります。

今日の報告でも法人格の無い団体さんとかもありますので、緩くした方が良いのかなと思います。よろしいでしょうか。

スタートアップの趣旨ですが、設立年数というよりは、事業をスタートアップさせる、個別の事業みたいなものなので、そこも緩めで良いのではないかと思います。ただ、設立がはっきりしない団体もあるので、要綱などで定められれば良いのかなと思います。ただ、すごく経験のある団体さんが助成をあっさりしていかないようにしないといけないと思います。

3番目、助成金の用途ですが、事業費そのものか管理運営費かについてです。

○事務局

市としては、協働事業への助成と考えているので、こうは書いているのですが、実際は事業費の支援ができれば良いのかなと私たちは考えております。

○篠崎委員長

管理運営費というのは、団体の普段の活動の管理運営費みたいなイメージですかね。

○事務局

このイメージは、いわゆる家賃とか固定費みたいなものです。

○篠崎委員長

そういうものではなくて、事業費そのものに充てるのが良いと思っております。

○鈴木委員

事業費か管理運営費か区分が難しい場合もあると思います。あまり厳密に家賃は絶対駄目とか、固定費は駄目とか言うのと、スタートアップの趣旨は少しでも背中を押してあげたいということなので、事業費か運営管理費かという区分を設けること自体の是非も、もしやるのであれば考えたほうが良いと思います。

○阿部委員

マッチングファンドスタートアップというのは、マッチングファンドの申請をしている団体だけの話をするのでしょうか。それとも、市民活動団体がどんな団体でも、設立したらこういうふうに申請して、対象になるのかどうかを知りたいです。

○事務局

イメージしているのは、設立して間もない団体さんとかが事業を始めるにあたって、ぜひ市と一緒に協働してやりたいと思ってる団体さんに向けて、一般助成だと結構申請書類がたくさんあって大変とかそういったところがあるので、もう少しハードルを低くして、協働事業のスタートアップとして始められたら良いのかなと考えているところです。

○阿部委員

市との協働事業をやる人が対象ということですね。

○事務局

はい。団体が御自身でやる自主事業、本当のスタートアップというものでは私たち考えていなくて、協働というのをどんどん発展させていった方が良いのかなというところがあります。もちろん、団体さんのスタートアップも大事だと思うのですが、やはりこの市民活動及び協働というところが結構大事かなと私たちは思っています。

マッチングファンドの趣旨も、ぜひ協働を発展させていこうという趣旨ですので、協働がターゲットかなと考えております。

○阿部委員

感じたところで言うと、マッチングファンドだけの対象が団体だと、あまり無いのではないかなと思います。

○事務局

過去にマッチングファンドをやった団体さんというわけではなくて、新設の団体さんとかがターゲットになってくるのかなとは思っています。

○阿部委員

少し心配だったのは、さっきの話じゃないけれども、楽しく自由な市民活動とかということで、団体を増やすための話ではなくて、行政との協働が条件みたいな、活力のある市民団体を増やそうというような目的ではないということですかね。

○事務局

市としては、協働を進めていきたいというところを考えています。何でも助成金を出しますというのは、どうしてもできないので、団体さんのスタートアップというところにおいても協働の視点は必要なのかなと考えております。

○阿部委員

スタートアップ事業をやるのはすごいなと思って、期待しようと思ったのですが、資料を見てみたら金額が少ないので、スタートアップできるのかなと思いました。ただ、埼玉県でさえ助成限度が50万円しかないですよ。

私どもは20年前に埼玉県のスタートアップ事業を申請しました。その時の限度額がたしか300万だったと思うのですが、私どもも150万の事業でこういった委員会で、プレゼンをしたりしました。

今考えてみると、20年前はNPO団体をどんどん増やしたいということもあって、やっていたことなので例にはならないと思いますが、私たちは今、市民活動を活性化しようという検討をしている中で、活力ある市民団体を多く育てるとというのが一番だと思いました。行政との協働だけでやると、かなり絞られた形になるのかなと心配があったので質問しました。

○篠崎委員長

市として自主的な活動そのものに助成金を出すということは、なかなか制度上難しいということでしょうか。

○事務局

マッチングファンドのもともとの趣旨として、市民活動の発展だったり、マッチングファンドを通じて協働事業を実施していくことで、他の協働事業が増えていたり、機会が拡大していくところが趣旨になっていますので、その視点は大事にしていきたいなど思っております。

○平井委員

主催者によると思うのですが、市と協働したいから、あえて小さいイベントでも何でも良いから一緒にやれるものを考えて、ここに応募する方もいらっしゃると思います。

ただ、活動を発展させたり、スタートしたいだけであれば、市でなくても民間の助成団体もたくさんあって、民間の方がむしろホームページがないと駄目とか厳しくてもそっちの方が自由度が高いからそれを選んで、あえて行政の助成金は、申し込んだことが無いという方々のお話も聞きますし、そこは全部市が担わなくても良いのかなと思いました。

市とやりたい人たちが逆にいるので、その人たちの間口を広げるということでは、今回でも良いのかなと私は感じました。

○篠崎委員長

いろいろな団体さんがいるので、市との協働を希望している方に積極的に手を広げていくという趣旨なのかなと思っております。

あと、既存の一般助成との整合性みたいなところも必要になると思います。最初から完璧にというのは、なかなか出来ないと思います。市のいろいろなやり方の枠組みの中で、でもできる限り気楽に応募出来て、市も応援しやすいみたいなものを作っていけると良いなどというのがこの目的ではないかと思います。

割合というよりは、小さな金額でという趣旨で良いのかなという気もしますけれども、或いは10万円と50%のどちらか小さいほうみたいな話もあるかもしれません。今日の報告でも、10万円いかない団体さんもあったりします。5万円はどうですかね。少し厳しそうでしょうか。大きい金額については、一般助成でということも可能だと思います。

○鈴木委員

先ほどから出ているように、スタートアップも良いのですが、いかに裾野を広げるかというためにそもそもやるものだと思います。

応募のしやすさとか市民の側からとってみれば、市と繋がることで少しでもクレジットが与えられるというか、信頼が高まって、金額は小さくても、書類を出す手間はあっても、「市と協働を一緒にやっているんだ」という、ある種のお墨付きをもらえるというところが多分一番のところだと思います。

金額自体は、5万とか10万にしてもそれほど大したことはないので、裾野を広げることが、非常に根本的な役割であるということをよく認識した上で説明して、ともすれば、市の方にも申し訳ないですが、「審査して入れてやるぞ」みたいなのは駄目だと思います。

市民側としては、「役所の監視が付くのは嫌だ」みたいなことではなく、「市と関わっているんだ」とか、市としても登録してもらうことによって、いろいろな情報が集まるということや市内で何百何千の人とやっていることが一番のメリットというか、市民活動の促進になるので、本当に敷居を下げるというか、楽しんで気軽に応募できるようにということを基本にやっていただければ良いと思います。

○篠崎委員長

申請自体、簡単にしなければいけないということともちろん審査も含めて、報告書もありますが、そのあたりのいろいろなハードルをとにかく下げるといえるように出来ればと思います。

10万円×5団体ずつとか、10団体出てきたら5万円だけにしてくださいみたいなこともあると思います。多くの人に参加してもらうというところは、やらないといけない気もします。ただ、大体、規模として上限10万ぐらいが目安かなというところです。

○山形委員

協働が一番の根幹にある大事な部分だということですが、これは助成金が無ければ協働ができないということではなくて、私の所属しているNPOでは、マッチングファンドとか関わらない状態で、いろいろな市の方にある様々な課に代表が出向いて行って、いろいろとお世話になっています。

それが協働という形に私はなっていると認識しているのですが、協働の進め方というのが多分、一般の市民団体の方はどうやって繋がっていけば良いかわからないのだと思っています。

その繋がり方を学ぶ場というか、どうしたらそれが出来るのかということを知る場というのが多分必要だと思っていて、それを行うには、別に助成金は関係無いと思います。

なので、そういう繋がる場というか勉強する場というのを別個に設けて、それはそれで一

つの形として推進課さんの方で行えることなのではないかなと感じました。

○事務局

おっしゃる通りで、協働は別に助成金に関わらず、特に山形さんの法人は代表がすごく熱意を持ってやってらっしゃるので、どんどん所管課さんに御相談に行ったりとか、助成金に頼らない協働の仕方をされていて、本当に素晴らしい姿だなと思っています。

ただ、団体さんによってそれができるのか、それとも少し怖くてそこまできないみたいな団体さんとかも結構いらっしゃるので、私達としては、協働のテーブルという呼び方にはしているのですが、団体さんから「市と何かやってみたい」みたいな相談とかを受ける場を普段から設けています。

そういった場で協働の仕方の紹介とか当課が間に入ってアプローチを一緒にするみたいなところはさせてもらっているのですが、そういったところは引き続きやりながら、協働の手法として、助成金を使うというところもあるのかなと思っていますが、「助成金が無くても大丈夫です」という団体さんは、御自身の団体さんで直接協働するというのは、あり得るのかなと思っています。

○篠崎委員長

新しい団体さんに積極的に参加していただく、或いは市の方から拾っていくみたいなところも一層進めていただければと思います。

確かに、まずそこまでたどり着くのも大変ということもあると思います。あと、今回のマッチングファンド事業でもいろいろな団体さんがやっていますが、やっている場で「こういうのを募集しています」みたいなことって、市の方で宣伝はされていますか。

○事務局

そうですね。各団体さんの事業の中で、「これはマッチングファンドを使ってやっています」とかももちろん宣伝もしていただいたりとか、チラシとかを作っていただくときに、「これは助成金を使ってやっています」など、マッチングファンドの宣伝はしていただくようにしていますので、団体経由からでも知ってもらう機会は作っております。

○篠崎委員長

市としてもなにかブースを出して、他の課さんとかも協働を出して、「今度、何月にこのような助成金申請を受け付けます」みたいなことを積極的にやっていただいたり、或いは、

そこまでいなくても、「市民活動みたいなことをやっていて、お困りなことを相談にのる会を今度やります」みたいなことは、積極的に情報発信していただくと良いのかなと思います。フェイストゥフェイスも大事かなと思います。

申請回数は、1年で事業がうまくいくということもないと思うので、2回以上あっても良いのかなと思います。上限は5回とか3回とか複数回あっても良いかなと思っております。

あと、団体ができる申請事業数については、1事業までか複数でも良いか、この辺はどうでしょうか。実際は1事業ぐらいまでかなという気もします。イメージとしては、1団体1事業と決めるとイメージは、はっきりします。新しいこと、やりたいことを出していただくように、最初は1事業で始めて、だんだん複数出したいみたいな事例が出てきたら検討するというところもあると思います。

あと、どういう名前をつけるのか。今、仮にマッチングファンドスタートアップ助成事業という名称で、わかりやすいはわかりやすいですが、他の文言等、人を引きつけるような良いタイトルがあればと思いますが、例えばこんなのはどうですかというのもあったらぜひお寄せください。

○大塚委員

手軽に始められるというマッチングファンドなので、今までみたいに1年に1回審査というよりも、何ヶ月かに1回申請が通るとかにすると良いと思います。

やろうと思ったときに、1年、2年とかかかると、結局使わないで終わってしまうということになるので、毎月とかではなくても、半年とか3ヶ月に1回ぐらいは審査していただいてというのがあったら良いかなと思います。

あと、助成を100%出してしまうと、きちんと事業をするというのではなくて、助成金をもらっただけみたいな、そういうこともあるのかなと思うので、自己資金が少しあったほうが良いのかなと思いました。

○篠崎委員長

年に1回ではないというのはとても大事だと思います。事業費をどう振り分けるかということもあつたりしますし、2回はあつて良いのかなと思いました。

議題には無いですが、今日の配付資料の最後、市民活動推進委員会答申用コラム題材案について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

市民活動推進委員会答申用コラム題材について説明。

○篠崎委員長

最終的に答申を作っていくわけですが、一般的な話だけではなく、具体的に「こういうことがある」みたいなものを答申に入れられると読む方に伝わりやすいのかなと思っています。或いは、他の団体さんに紹介できるのではないかと考えています。

そのため、事例集というようなものを入れられたら良いなと考えております。皆さんに、「こんなことがあった」というような内容をお寄せいただけたらと思います。

議題としては以上ですが、皆様から或いは事務局から御連絡があればお願いします。

3 その他

○事務局

《事務連絡》

4 閉会

○篠崎委員長

以上で本日の委員会を終了します。ありがとうございました。